平成15年度漁協青壮年部交流会・巡回移動相談実施

中村勇次・山田真之

1．目的

近年、漁業技術の高度化や栽培養殖技術の普及定着化、さらには資源管理に基づいた計画的な漁場利用、営漁計画等に基づいた適切な漁家経営、高度な知識や技術の習得、地域の協同意識等青壮年部・青年漁業士等には、より一層の資質の向上が求められている。このように、地域の問題解決や新たな漁業技術の開発等を積極的に推進していくには、青壮年部や青年漁業士を中心とした各漁業種類別の部会や班を設置し研究活動を活発にしていく必要がある。そのためには、活動の目標を明確にし新しい協同意識を高めつつ、漁協と青壮年部の横の関係を重視し共通性に基づく連帯活動が青壮年部活動の基本である。

そのようなことに鑑み、青壮年部の移動相談を通して活動の実態等を把握し、今後の青壮年部活動を支援し方向性をみいだすために同計画を実施した。

2．巡回相談目標

1）地区交流を開催し、青壮年部を積極的に支援する。

2）年度毎に活動の実態を調査し、実態に即した組織活動のあり方等を指導する。

3）生産部会、班設置に向けた活動計画の作り方等を積極的に指導する。

4）地区交流の開催に当たっては、指導漁業士等を積極的に参画させ、指導助言を仰ぐ。

5）近隣漁協青壮年部が集まることにより組織間の交流を図る。

6）地区交流会終了後、一年間の総括として部長事務局会議を開催する。

3．対象

漁青連に加入している13漁協青壮年部を対象に行っているが、今年は本島地区（周辺離島を含む）10漁協青壮年部の交流会と先島地区3漁協の巡回移動相談会を実施した。

4．平成15年度巡回相談内容

1）青壮年部活動についての意見交換

ア．平成14年度部長事務局会議（総括会議）経過報告

イ．青壮年部活動についてのミニシンポジウム（先島地区にあっては各青壮年部活動状況報告）

2）水産試験場情報提供

ア．魚類（スギ・ヤイトハタ）養殖について
・・・増殖室

イ．水産試験場が収集・広報している海況情報について
・・・漁業室

ウ．シャコガイの養殖について
・・・普及センター

5．日程（平成16年2月～平成16年3月）

青壮年部	開催日	交流対象青壮年部	開催場所
沖縄本島地区	（中止）	伊江・恩納村・石川・沖縄市・勝連・港川・那覇市沿岸・糸満・知念・久米島	
宮古地区	2月25日	伊良部町	伊良部町漁協会議室
八重山地区	3月15日 3月16日	八重山 与那国町	八重山漁協会議室 与那国町漁協会議室

6．実施及び協力機関

1）実施機関：水産試験場普及センター

2）協力機関：沖縄県漁業協同組合連合会
漁政企画課

7．実施内容

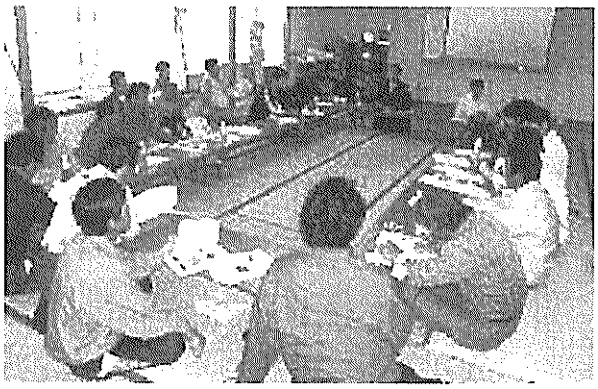
1）本島地区交流

2月に沖縄市において開催を予定したが、モズク養殖とソデイカ漁の最盛期に当たり、各青壮年部から出席が見込めず中止とした。例年2月頃に巡回相談を計画するものの漁業者の時間がとれずに延期になることがおおいが、今年も同じ轍を踏んでしまった。16年度は夏場に本島地区交流会の計画をしている。

2）伊良部町漁業青壮年部

参加者20名程度で、宮古支庁からパヤオに関する説明会もあったため、青壮年部だけでなく一般漁業者や役場も交えての開催になった。

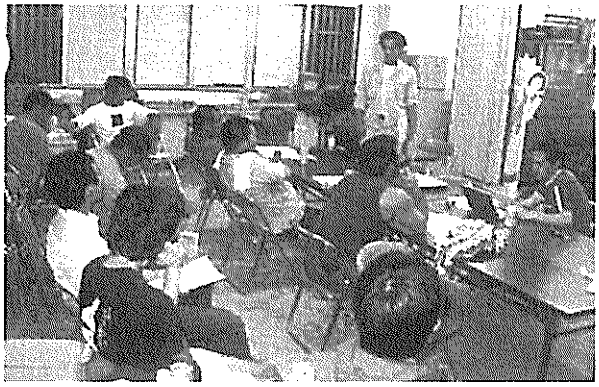
伊良部漁協青壮年部は昨年度の巡回相談時とあまり状況が変わっておらず、体験学習等の依頼に積極的に対応している。水試情報提供にも積極的な質疑応答があった。特に漁船漁業の多い土地柄からか海況情報への質問が多かった。



3）与那国町漁協青壮年部

参加者８名。与那国では、普及員と行ってるシャコガイ養殖試験が主な活動であったが、波の荒さからケージの破損が相次ぎ先の見通しが立たない。与那国は地理的・地形的なハンデを抱えているため、他地区と同じような養殖等に取り組むよりもインターネットを活用した遊魚への取り組みをしていきたいとのことで、遊魚部会の立ち上げを考えている。

イベントなどへの出店は行っておらず、活動費は町役場からの補助による。廃油ボール等の海浜清掃も行っている。



4）八重山漁協青壮年部

参加者９名。八重山漁協青壮年部の活動として、トライアスロンへの協力や年２回の海浜清掃等を行っているとのこと。部員数は30～35名程度おり、年会費2,000円を集めている。以前は海浜清掃のお金も部費にしていたが、現在は個人へ分配している。

組合や市役所からの助成金が無くなり活動ができない。イベント等に出店を出そうにも青壮年部内で漁業種類が多すぎて人がきちんと集まらない。

8．所感

今年度は交流会を開催できなかったため先島

のみの巡回相談となったが、状況としては昨年度と変わらないようである。生産性のない（お金の儲からない）活動を続けることにより、一部地域では部会へ加入しない若者もでてきており、それが部会全体のやる気をなくさせる原因にもなっている。

ある漁業者から言われたことだが、「現在普及員がやっていることは養殖等指導しやすいものに偏っている。その土地にあったもの活動が何かを考え、それを実行するために力を注いでほしい。」一年に一回の巡回相談や交流会だけでなく、普段の各青壮年部の活動に積極的に参加し、一緒に課題の抽出を行っていくように努めたい。